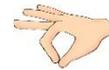


# こどもの て ってどんな手??

子どもの指先や手首の発達の流れはご存じですか？  
子どもの手は生後からたくさんの反射や刺激を通してさまざまな動きが出来るようになってきます。  
ここでは、生後～1歳6か月ごろまでのおおよその手の発達を紹介します。

## ◆子どもの手の発達（おおよその目安です）

- \* 0か月ごろ～手のひらを触ると、握り返す（把握反射）
- \* 3か月ごろ～親指が外側に出ることが多くなってくる  
手のひらの中におさまるものを握る、持つ
- \* 6か月ごろ～手のひら全体で握るようになる  
手首を上下に動かす
- \* 9か月ごろ～意図的に手を開き、握ったものを離す
- \* 12か月ごろ～ものをつまむ、小さなものに人差し指と親指でつまもうとする
- \* 18か月ごろ～手首をまわす



このように、反射・反応だけを示していた子どもの手は、少しずつ筋力、柔軟性、器用さを身に付け、複雑な動きが出来るようになっていきます。

ちなみに・・・

子どもの手は、「大人が軍手を2枚重ねて付けた状態に近い」ということをご存じですか？

また、「子どもは大人の8倍、時間が掛かる」とも言われています。

その状態で、着替えが上手にできるか・・・？靴を早く履けるか・・・？折り紙を上手に折れか・・・？

ちょっと想像しただけでも **「はやく」「上手に」「きれいに」**が子どもにとって難しいのが分かりますよね。

それを知っているだけでも、ちょっと時間に余裕を持ったり、気持ち的にもおおらかに見守れるようになったりしませんか？

実は私自身も、日々仕事に子育てに家事に・・・常に時間に追われて、ついつい「早く！」「もう時間だよ！」と我が子を急かしてしまいます。

でも乳幼児期だからこそ、子どもがじっくりと取り組めるように、私達大人が時間に余裕を持てるようにしたいですね。

「今、頑張っているんだな」「早く”って難しいんだな」と、共に見守っていきましょう！

（矢野）